

【教科名】 応用化学工学実験 Experiments in Applied Chemical Engineering <履修単位科目>						
学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
4	物質化学工学科 応用化学工学コース	(必修) 2	後期	15	4	60
【担当教員】 後藤 宗治 【教員室】 7号館 2階 【TEL】 964-7247 【e-mail】 goto@kct.ac.jp 前田 良輔、園田 達彦、山本 和弥						
【授業目的と概要】 化学工学の知識は独創性や応用面への活用が必要で学習には実験と実習が欠かせない。装置に直接触れて、その操作方法を理解すると共に 理論および計算式を実験データと対比して理解できるようにする。						
【授業の進め方及び履修上の注意】 単位操作に関する 8 テーマを主体とし、ガラス細工、工作実習についても併せて実験する。 全体を 4～5 名からなる班に分け、毎週ローテーションし、各班が全部のテーマを実験する。 レポートの提出時には各人に試問を行う。最終週では実験に関する試験を行う。						
授 業 項 目	内 容					時間
【後期】 オリエンテーション 流動試験 境膜伝熱係数の測定 粉碎、分級 熱風乾燥 恒圧濾過 機械工作 伝導伝熱 蒸留、精留 塗れ壁塔 ガラス細工 レポートの整理 総合試問	各実験テーマの説明（装置、理論、注意事項） オリフィスマータ、ピトー管、摩擦損失 熱交換器における境膜および総括伝熱係数の測定 ボールミルによるセメントの粉碎と粒度分布測定 粘土材料の流通式熱風乾燥機による乾燥実験 セライトスラリーの恒圧ろ過実験 真空ポンプの分解と組み立て、構造スケッチ アルミテストピースの熱伝導度測定 メタノール・水系の平衡蒸留実験 濡れ壁塔の境膜物質移動係数の測定 ガラス管の切断、T字管、試験管、Y字管の作成 レポート整理 実験の試問					8 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4
定期試験						
【達成目標】 流体の流量測定の原理を理解し、数値として求めることができること。 流動における摩擦損失を計算できること。 伝熱における境膜伝熱係数、総括伝熱係数の計算ができること。 気液平衡関係を理解し精留塔の HOG、NOG の計算ができること。 ろ材抵抗、ケーキ比抵抗を数値的に求めることができること。 乾燥における熱伝達係数を数値的に求めることができること。			【教科書】 自作プリント 【参考書】 解説化学工学実験、培風館、竹内雍他著 化学工学、朝倉書店、化学工学会監修			
JABEE 教育目標	(B)①②, (C)①②③④, (E)②					
準学士課程目標	(B)①②, (C)①②③④, (E)②					
成績 評価	【評価基準】 実験の目的、方法、理論、計算と結果の整理ができていて、考察を行っていること 【評価方法】 実験レポート 90%、小テスト 10%。60 点以上を合格とする。			【オフィスアワー】 月曜日 午後 1 時～5 時 水曜日 午後 1 時～5 時		